

# No. 2 ひらつかの風

No. 2 号

2018年5月号  
(平成30年)

ひらつか市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動団体やボランティアなどで活動されている人たちや、これから活動しようとしている人たちを応援します。

## CONTENTS

- P.1 ……ひらつか市民活動センタースタッフ・平塚市協働推進課職員の紹介
- P.2 ……団体レポート 女性防災グループ『平塚パワーズ』
- P.3 ……お役立ち情報
- P.4 ……センター情報、平塚市情報

### 団体 レポート

## 自助・近所・共助 - 女性目線で地域防災に取り組む 女性防災グループ『平塚パワーズ』



### センター情報

## ひらつか市民活動センターのスタッフを紹介します。

平成30年度は、センタースタッフ11名、平塚市協働推進課職員3名、計14名で団体の皆さんの活動を応援してまいります！  
どうぞよろしくお願いいたします！

何でもご相談  
ください！

あたたかいハートで、  
皆さんをお待ちしています。

お気軽に声を  
おかけください！

皆さんの情報をお寄せください！ホームページに掲載させていただきます。  
URL ● <http://hiratsuka-shimin.net>





## 自助 近所 共助 — 女性目線で地域防災に取り組む 女性防災グループ『平塚パワーズ』

「10秒後に大地震が起こったらあなたはどのようにしますか？」災害は他人ごとではありません。大事な家族や近所の皆さんの命を守っていきたくと、女性目線を活かした活動を20年以上も続けている「女性防災グループ平塚パワーズ」の活動を紹介します。

### ■赤い制服がトレードマーク

阪神淡路大震災後の平成7年、平塚市が女性を対象に防災リーダー養成講座を開催し、そこに参加した30名が自分たちで地域防災活動が続けていきたいと、平成8年5月に女性防災グループ平塚パワーズ(以下パワーズ)を立ち上げました。活動を始めて今年で22年目。36名の女性たちが、自助・近所・共助のつながりを大事にした防災減災活動を、自治会や小中学校をはじめ、各地域へ出向いて実践しています。



活動の源はメンバーの笑顔

### ■女性目線の活動が自分たちらしさ

2011年3月11日の東日本大震災が、活動の分岐点になりました。ちょうど震災の5日前に東北大学で講演をしたことが、自分たちの活動を振り返るきっかけになったそうです。

パワーズでは、かねてより災害時は何よりトイレの問題が急務と身近な素材の段ボールを使って簡単にできる「段ボールトイレ」を考案し、各地で普及活動を行っていました。そんな時に起こったのが東日本大震災。当時、被災地ではトイレが大きな問題でした。汚れたトイレには行きたくないと、水分を取ることを制限する方もいて、生死にかかわる問題にもなっていました。



段ボールトイレの作り方を紹介

そこで、以前から繋がりがあった神奈川新聞記者に段ボールトイレの記事掲載を相談し、さらに平塚市災害対策課の協力を得て、段ボールトイレの作り方をインターネットで公開しました。

インターネットで公開後、アクセス数が急増し(再生回数1万回超)、問合せがひっきりなしに届くようになりました。その時、段ボールトイレが被災地で役立っているという実感と自信を持ったと同時に、これまでの活動は間違っていなかった、自分たちは自分たちらしく、これからも女性目線を活かした提案や活動をしていこう、と改めて決意したそうです。

### ■経験と蓄積を活かし更なる発展へ

昨年、これまでの活動を一冊の冊子にまとめて発行しました。「災害時は助け上手たすけられ上手」「防災減災パワーズブック」は、発災後～7日間を生き延びるための最低限の必需品、応急手当や災害時に役立つ簡単クッキングの方法や防災豆知識などがイラストを添えてわかりやすくまとめられています。この冊子を発行したことがきっかけで神奈川県内外から講座の依頼がきているとのこと。その後は、目の不自由な人のための点字版や音声版パワーズブックを発行、現在は、外国人向けの英語版パワーズブックにも取り組んでいます。



木村副会長(左)と菅野会長(右)

今後は、防災活動を始め人、受け継ぐ人のことを考え、「臨機応変に対応できる取り組み方を考えていきたい。」と更にスキルアップを目指します。「日々の活動は積み重ね、過去があるから今があります。命あつての私たち。家庭の主婦でも世の中に接点を持ち誰かの役に立ちたい。もっと女性に地域防災訓練に出てきてほしい。」と語る木村さんと菅野さん。女性ならではの活動に益々期待が寄せられます。

お役立ち  
情報 1

会員が増えない…。 会員を増やしたい…。

## こんな悩みをお持ちではありませんか？

今号では、そんな悩みを解決するためのヒントをいくつかご紹介します。

あなたの団体で「会員が減ると困ること」は何でしょうか？メンバーの負担が増える、活動がうまく回らない、そんな声も聞きますが、どんな人がいたら助かるのか、どんなスキルを持った人が欲しいのか、新しい人が来た時の受け入れ体制は出来ているか？そんなことも一緒に考えていけるといいですね。

## 1 まずはボランティアで関わってもらう。

いきなり会員はハードルが高い、という声も…地域の役に立ちたい、何かやってみたい、という方は案外多いもの。いつ・どこで・どの団体で・何をするのか、という具体的な情報やきっかけさえあれば、一步を踏み出してくれるはず。はじめはボランティアでも、一緒に活動しているうちに会員になる、というケースが意外と多いようです。

## 2 できるだけハードルを低く、参加しやすいきっかけをつくりましょう。

- 参加型のイベントを実施する。
- 学びの場のイベントを実施する。
- 次回につなげるための案内を必ず用意しておく。
- 必ず声掛けして一人にさせないように気を配る。

3回～4回と来てくれるようになるといいですが、単発の参加でもがっかりせず、きっかけづくりのイベントは継続して行いましょう。来てくれた方とのコミュニケーションは大切に、次回もここに来たい、と思ってもらえるような場づくりが大切です。

## 3 求めるボランティア像を明確にする。

どんな人に来て欲しいか、求めるボランティア像を明確にしておくことがポイントです。対象が明確になると、どのようなメッセージで、どんな手段で、どのタイミングで伝えれば効果的かを考えやすくなります。

## 4 組織の一員として受け入れられている、と感じられる環境を作りましょう。

やってもらったことや成果については素直に感謝の気持ちを伝えたり讃えたりしましょう。自分を認めてもらえたと実感でき、やりがいにも繋がります。「あなたが必要です。私たちはあなたを受け入れています」という意思表示は、未知なる世界に飛び込んだ人にとって嬉しいものです。

新しいメンバーが入ることで組織が活性化することもあります。チャンスは自分たちでつくるもの、まずはきっかけづくりの場をつくってみませんか？

お役立ち  
情報 2

「伝える」が「伝わる」へ

## 情報や想い…ちゃんと伝わっていますか？

「一生懸命と伝えているつもりなのに相手に情報や想いが伝わらない。」団体活動の中で、がっかりすること、よくありますよね。

「伝える」と「伝わる」の違いをみると、「伝える」は自分が伝えたいことを話す行動、主語は自分ですよね。一方「伝わる」はそこから一歩進んで相手が話に共感し次の一歩を踏みだそうとする状態、主語は相手です。相手の気持ちが動いて初めて「伝わる」と言えます。めざすは「伝わる」こと。そのための工夫をご紹介します。

## 1 伝えたい相手をよく知る。

例えば、会員勧誘。相手の入会目的、やりたいこと、得意なこと、苦手なことなど、話をしっかり聞き、相手を知りましょう。そして理解した上で、会としてどのような場やメリットを提供できるかを考えて、話すと相手は安心しますし、またやってみようかなと心が動くきっかけになるでしょう。

## 2 伝えたい情報をしっかり整理する。

団体の目的や目標、活動内容を整理した伝えたい情報から、相手が必要な事を選びます。特に意識したいことは団体に関わることで生まれる相手のメリット。どんないいことがあるか分かると次の行動につながりやすいです。

## 3 わかりやすい言葉でわかりやすく話す。

だれでもわかる言葉でわかりやすい説明を心がけましょう。団体で活動していると当たり前になってしまう専門の言葉や言い回しも、初めて聞く人には理解できず不安につながります。



相手が「こんな方法があったのか」と気づき、「自分も参加してみたい」「協力したい」と次の一歩につながる伝え方、心がけたいですね。まずは相手を主語にすることから始めてみませんか。



センター情報

● 団体活動にお役立てください！  
市民活動応援講座 & 6月のコミュ☆カフェをご案内します

地域活動入門  
「NPO法人のつくり方」講座

地域の課題を何とかしたい、NPO 法人を立ち上げて活動してみたい。そんなあなたにNPO 法人の役割とつくり方について説明します。また、実際に NPO 法人として活動している団体をお招きし、詳しいお話を伺います。思いをカタチにしたい方、ぜひご参加ください。

日時 ● 6月30日(土) 13:30～16:00

定員 ● 20名

参加費 ● 500円(資料代)

ゲスト ● NPO法人「平塚のら猫を減らす会」  
理事長 平田昇氏



6月のコミュ☆カフェ  
「認知症の方への理解と対応」

最近、身近な人の言動や行動が気になる、認知症カフェをはじめたい、親が認知症になった、どう対応していいかわからないなど、認知症は身近な問題です。経験豊富な介護支援専門員をゲストスピーカーにお招きします。みんなで一緒に話し合いませんか。

日時 ● 6月13日(水) 19:00～21:00

定員 ● 20名

参加費 ● 500円(資料代・お茶代) ?

ゲスト ● 介護支援専門員  
加藤 勉氏



平塚市情報

団体用パソコンをGETしよう！

第15回かながわイーパーツリユース PC 寄贈プログラムの募集が始まりました。

団体専用のパソコンで、「ホームページを作りたい」「資料の共有化を進めたい」「出先でプレゼンしたい」など、活動をパワーアップさせましょう！

募集期間 ● 4月9日(月)～6月29日(金)

申請方法 ● 専用サイトの申請フォームから申請

寄贈台数 ● ノートパソコン50台、液晶モニタ40台

募集要項は、センターホームページからダウンロード又は、センターで直接お受け取りください。



協働の成果を聞いてみよう！

平成29年度に実施した提案型協働事業の報告会を開催します。行政と協働したからこそ実現できた成果や、大変だったことなど、団体、行政の生の声を聞いてみませんか。

日時 ● 平成30年5月19日(土) 10:30～11:30

場所 ● ひらつか市民活動センター

①不登校・引きこもり改善・自立支援事業

NPO 法人ぜんしん × 青少年課

②ひらつか市民活動センター協働運営事業

NPO 法人湘南 NPO サポートセンター × 協働推進課



編集後記

情報紙とHPをリニューアルして1ヶ月半。「いいねえ」「見やすくなった」とご覧になった方からお言葉を頂戴しています。さて、夏日といわれる日につきものの、熱中症が心配になる季節となりました。

今年度から平塚市市民活動災害補償制度では活動中の熱中症や日射病なども補償となりますが、水分補給と休憩をこまめにとって熱中症などにならないようお気をつけください。  
(大和田)



編集・発行

ひらつか市民活動センター

(開館時間 9:00～22:00 年末年始を除く)

〒254-0811

神奈川県平塚市八重咲町3-3 JAビルかながわ2階

TEL ● 0463-21-7517 FAX ● 0463-22-3701

Eメール ● info@hiratsuka-shimin.net

URL ● http://hiratsuka-shimin.net

センター登録団体数(2018年4月15日現在)

登録団体数: 500 団体

(内訳 市民活動団体…353 団体、一般団体…147 団体)

